第13回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会

文化遺産保護の新たな担い手

多様化するニーズへの挑戦

主催　文化遺産国際協力コンソーシアム

14:30-14:40
開会挨拶

14:40-15:10
講演1 **「企業による芸術文化支援、その多様な広がりと現状」**
荻原康子（公益社団法人企業メセナ協議会事務局長）

15:10-15:40
講演2 **「バンクオブアメリカ・メリルリンチの文化財保護プロジェクト」**
平尾佳淑（メリルリンチ日本証券株式会社 CSR 推進責任者）

15:40-16:10
講演3 **「公益財団法人住友財団の文化財維持・修復事業助成について」**
蓑　康久（公益財団法人住友財団常務理事）

16:10-16:30
休憩

16:30-17:25
パネルディスカッション **「民間団体の役割と今後の展開 ―公益性、話題性、継続性をどう考えるか」**
モデレーター：嶌 信彦　（ジャーナリスト）
パネリスト：荻原康子、平尾佳淑、蓑 康久、小宮 浩（公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団専務理事）

17:25-17:30
閉会挨拶

17:45-19:00
懇親会　＊参加の場合は当日会場にて会費 1000 円を承ります。

人々の生活の多様化に伴い、公的サービスでも民間企業による市場原理でも手の届かない、狭間のニーズが増えていると考えられています。官民が連携し、それぞれの長所を活かした一層効果的な協力の在り方を検討すべき時期が来ていると言えるでしょう。この状況は、文化遺産保護の現場でも起こっており、文化遺産の保護・保存・活用における民間の参画が目立ってきています。文化遺産の持つ価値が多様化する今、様々なニーズの中から、公益的なニーズをくみ取り、公正に共有していくことが必要とされているのです。

しかしながら、現場で民間団体の活動を目にすることは増えてはいるものの、その活動の理念や達成すべき目標について話を聞き議論する機会は多くありません。こうした状況を受け、文化遺産国際協力コンソーシアムにおいても、学術分野の活動の把握に留まらず、より多様な民間分野との連携を検討する場が不可欠であると考えました。

今回の研究会では、文化遺産保護が民間団体の手によって進められている事例を紹介し、民間団体の活動の現況を知り、その大きな役割を理解し、文化遺産保護のための多様で有効な相互的パートナーシップのあり方を模索する場としていきます。

2013年9月5日（木）
14:30～17:30（14:00開場）
東京文化財研究所セミナー室（地階）

お申込み

研究会への参加ご希望の方は以下のコンソーシアムウェブサイトの申込フォームからお申し込みください。
http://www.jcic-heritage.jp/form/form.cgi

文化遺産国際協力コンソーシアム事務局
〒110-8713 東京都台東区上野公園 13-43
Tel 03-3823-4841 / Fax 03-3823-4027
E-mail consortium@tobunken.go.jp / URL http://www.jcic-heritage.jp/

JCIC-Heritage